
日常妄想虚言壁

アダムの肋骨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

日常妄想虚言壁

【ノード】

N2005D

【作者名】

アダムの肋骨

【あらすじ】

短編集です。日常的にありそうな…でもやっぱりないな…的な内容です。個人的には一番最後の『無線』がおすすめ

(前書き)

短編集です『いたずら』『流されない子』『無線』等心持ち雰囲気を似せないように作ったつもり…なんにしき色々カオス

* * いたずら * *

家のベルがなつたので、

俺は扉を開けた。

『此処はドコなのでですか？』

7才程度の少年がこちらを見上げていた

『此処はナニなのですか？』

話し方が何だかおかしい

『あなたはナニのですか？』

わけの分からぬ言葉を発していく

『私はナニなのですか?』

少年は、質問をするだけすると

答えを知りうともせずに去つていった

その少年を田だけで追つていくと、

となりの家へ歩いていくのが分かつた

そして俺にしたことを探り繰り返すと、

今度は別の家へ移動していった。

何をしたいのか分からぬ…

あれは新手のいたずらだ

新種のピンポンダッシュだ

忘れることにした

* * 流されない子* *

もうそれ以上立ち止まらないで

君がそこにいたって、

君は世界に流されるだけ。

流されるなんていやだろ？

だから君自信の足で歩いて、

世界から逃げるんだ

そしてずっと、

逃げるんだ。

雪崩に流されないよ！…

津波に流されないよ！…

人ごみに流されないよ！…

君は逃げ続けるんだ

立ち止まつたらそれが最後…

世界に流されたくないのなら

逃げ続けるしかないんだよ

* * 無線 * *

「二九一一番隊、只今スーストケースで待機中。ビーぞ

『二九二番隊、只今貨物列車つで待機中。ビーぞ』

「興味本位で入つてみました。ビーザ」

『「いらっしゃも興味本位で入つてみました。ビーザ』

「ぶつちやけ、ステッのにおいが好きなんです。ビーザ」

『ぶつちやけ、荷物のにおいがすきなんです。ビーザ』

「いやいやお前それ変態だらへ。ビーザ」

『いやいやお互い様だらへ。ビーザ』

「ぶつちやけなんで待機してこのか忘れました。ビーザ」

『待機なんて一種の自己満足に過ぎなことおもこます。ビーザ』

「てか、もう此処から出れません、心地よくて。ビーザ」

『私も出られません、てか出たくあつません。ビーザ』

「私は此処で生涯を終えようと思こます。ビーザ」

『ぶつちやけ、もつビーなつてもいいです。特にお前は。ビーザ』

「これから僕も貨物列車の精靈にならうと思こます。ビーザ」

『これから僕も貨物列車の精靈にならうと思こます。ビーザ』

「妖精と精靈ひじり違つんでしょうか。ビーザ」

『どうでもいいけど僕は精霊のほうがいいです、何かそのほうが神聖じやん。ビーベ』

『いやいや妖精のほうが神聖だからね。ビーベ』

『いやいや妖精は名前に妖怪の『妖』が入ってる時点で妖しいからね。ビーベ』

『いやいや妖しいほうが何だかいじやん。神秘的で。ビーベ』

『神秘も神聖も無いだろ。ビーベ』

「じゃあ、神様にお願いしよう。ビーベ」

『うひょ。ビーベ』

「じゃあ、此処から出よう。ビーベ」

『あーでもまだこのにおこ嗅いでいたいわー。ビーベ』

「じやあ、やめよう。ビーベ」

『いいよ、遠慮すんなって、お前は行つてこよ。ビーベ』

「お前一人、置いていくかよつ（きりん）。ビーベ」

『あー何か今胸キュンしたわー。ビーベ』

「あ～それないわ～、無理だわ～。ビーベ』

『ぶつちやけもつ感嘆詞しか聞こえねーよ。ビー♂』

「ぶつちやけ僕飽きたんで、スースケースから出すかと思こまゆ。ビー♂」

『いやいやそれないから、チニはもうスースケースから出られないから、鍵かけちゃったから。ビー♂』

「先輩イツツーなにやらかしてくれてるんですかっ。ビー♂」

『ちよつとした出来心です。ビー♂』

「いい加減もうスースのにおいがしません、嗅ぎあわせて。ビー♂」

『それ僕のスースだから。ビー♂』

「吐き気があるので早退させていただきたい。ビー♂」

『いやいや、チニはもう僕のスースに包囲されてる。ビー♂』

「チニで呼ぶのやめてください。ビー♂」

『しゅみなんです。ビー♂』

「本氣で気持ち悪いです。ビー♂」

『おひゅーのスースなんではかないで下せこ。ビー♂』

「もひ心配要りません仕きました。ビー♂」

* * * * *

おにゅーのスーツはおにゅーのスーツケースと共に焼却炉へ廃棄されました。

スーツが臭けりやボイラーフ燃える

ケースが臭けりやボイラーフ燃える

中身の生体もろともに

(後書き)

いかがだったでしょうか…きっと最後まで読んだ方は色々消化しきれない内容だったと思います。スマセンでした

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2005d/>

日常妄想虚言壁

2010年12月4日21時33分発行